

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800275		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目3-12		
自己評価作成日	平成24年3月2日	評価結果市町村受理日	平成24年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

援助するのではなく支援するという視点で介護に携わるよう常に心がけております。また、ご利用者様の生活リズムや尊厳というものを大切に、ご利用者様主体のサービスとなるように努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800275&SCD=370
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長沼町の住宅街にあり、田園地帯に囲まれた自然豊かな場所に位置する1階建て1ユニットのグループホームである。敷地内には小さな畑やあずま屋などがあり、利用者や地域の方が日光浴などを楽しむことができる。共用空間は日当たりが良く開放感があり、居間と食堂が一体的である。ゆったりとしたソファを配置したり、行事の写真や花の飾り、小鳥などでなごやかな雰囲気を作っている。音楽療法のボランティアの受け入れや避難訓練への地域住民の参加など、地域の協力も十分に得られている。食事の面でも彩りや品目の豊富な食事が提供されている。職員間のコミュニケーションが良好で、利用者に穏やかに接しており、利用者もゆったりと自分のペースで過ごすことができている。冬期間の外出がやや少ないものの、暖かい期間は散歩や行事でのドライブなどがあり、個々の希望に沿った外出の支援も行われている。同一法人の2ユニットのグループホームが隣接しており、運営推進会議や避難訓練をお互いに協力しながら行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく、自由に、ありのままに、暮らしの喜びと自信をみんなとともに」を理念に掲げ、その基に“その人らしさ”、“地域に根ざしたグループホーム”を全職員が一丸となって目指していくように努めております。	4項目からなる理念の「みんなと共に」という言葉に、地域のみならず共にという意味を含め、地域密着型サービスとしての理念としている。理念は共用部分に掲げられ、ミーティング時に振り返って職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事等へお年寄りをお連れしたり、当ホームで開催します行事へ近隣の方々をお誘いするなどしています。また毎週土曜日にはボランティアによる音楽療法を行ったり、昨年12月には地域の老人クラブ様より雑巾を寄付していただきました。	近隣への散歩の際に住民と挨拶を交わしたり、地域のお祭りを利用者が見学したりしている。また、音楽療法のボランティアの方が毎週ホームを訪問してくれたり、ホームの夏祭りに地域の方が参加してくれるなど地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症というものの理解や支援を広く地域の方々へ伝えることのできるよう、研修等を通じて職員が共通の知識と理解を持てるように努めているところです。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は、3回運営推進会議を開催し当ホームの取り組みや評価、災害時の地域との協力体制、今後の当グループホームが地域とどう関わっていけばよいか話し合い、現在は具体的取り組みについて検討しているところです。	2か月毎の運営推進会議を予定していたが、前年は7～9月に集中して3回の開催であり、防災や外部評価、地域交流などのテーマで話し合っている。地域包括センターや町内会役員は参加しているが家族の参加はない。	概ね2か月ごとの定期的な開催と、家族の参加の呼びかけを期待したい。議事録についても家族に送付し、意見や要望が得られるような働きかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は役場主催のサービス調整会議に参加し事例検討や情報交換を行っており、サービスの向上に向けた協力関係を築けるように努めています。	町の福祉事業所が集まるサービス調整会議に出席しており、町の担当者いつでも相談できる状況にある。また、町内に新たな介護施設を造るための相談も受けるなど、町との協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じ身体拘束について学び、実践しております。日中は施錠せず、ドア内の人感知センサーで出入りを見守っております。また、禁烟集や禁止行為について職員間で話し合い、共通の理解を持てるように努めています。	身体拘束に関するマニュアルはあるが禁止の対象となる11項目の具体的な行為は明記されていない。一方、禁烟集を作成し共有している。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は外出があればセンサーで分かるようにしている。	禁止の対象となる11項目の具体的な行為を明記したマニュアルを整備し、勉強会などで共有されるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の重要性は内外の研修等を通じ、共通の理解と認識を持ち実践しております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会があったが、それを活用できるような事例が現段階ではありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際には分かり易く説明するように心がけ、また十分に時間をかけ疑問点は伺いその場で納得、理解を得られるよう努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾け、気付いた点などを伺うようつとめている。	家族の来訪時に近況を伝え、その際に意見や要望を聞いている。月1回ホーム便りを作成して家族に郵送しており、職員の異動についても掲載するよう検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に申し送りや業務の中で改善等の提案を聞き入れ出来る限り即解決出来るように心がけているが、判断が難しい時は本部とも意見交換も行っている。	毎朝の申し送りと月1回のミーティングで活発に意見交換や情報交換を行っている。ミーティングでは地域交流やインフルエンザ対策、誕生会などの議題を設けて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の取り組みに達成感を得られるよう個々の努力にまかせております。必要に応じて助言や提案をし給与については、努力の成果に見合ったものになるようつとめております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員の受験対策を法人で行ったり、外部の研修等への参加を無理のかからない範囲ですずめております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌等で民間の勉強会に参加し、管理者、職員が他事業所との交流、ネットワークの場としても活用しております。昨年の末頃には、他事業所が訪問に來られサービス向上にむけた情報交換も行いました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていることや生活全般で不安に感じていることなどを聴くようにしており、ご本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや不安に感じていること、サービスを受けるにあたっての疑問などに耳を傾け、良い関係を築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活の経過や現在の状態把握に努めそこからどのような支援が必要となってくるかを見極め総合的なサービスとなるよう心がけ提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に目線と一緒にし、ご利用者様本意の生活となるよう職員も生活を共にする者として支援していくことに心がけております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	援助の方針に迷ったときなどご本人の意向を踏まえつつご家族へ相談し、一緒に援助内容を決めていくなどの関係に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向を踏まえつつ、かかりつけの病院や美容室、理容室への付き添いをしたり、友人、知人の訪問時には、お茶菓子などを出し、話しやすい雰囲気を作り馴染みの関係づくりに努めています。	友人や知人が来訪してくれるのでお茶やお菓子を提供して歓迎している。知人との電話のやり取りも支援している。行きつけの美容院や理容院に通ったり、個別の買い物に出掛ける際に外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム全体としてとらえ、だれか一人にかたよることなく全ての人と関わりを持つように努めている。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご病気や怪我などで入院された際には、様子を伺いにお見舞いに行ったり退院後のサービスなどについてご家族と話し合ったりするように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、意向を聞き入れ職員間で共有しサービスへ反映できるよう努めております。また、希望を伝えることが困難な方については、情報やご家族の話をもとにサービスを検討しております。	前回の外部評価における取り組み事項に対応し、フェイスシートやアセスメントシートを進化させ、センター方式のシートの一部を活用して本人の不安や願い、楽しみごとを把握し、共有してサービス提供に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族にこれまでの生活歴や暮らし等について伺うよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等について定期的にまた変化に応じアセスメントし現状把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやモニタリングを行いそれを基に職員間で定期的に話し合い、必要に応じてご家族に相談し現状に即した計画を作成するよう努めています。	3か月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスを経て介護計画を見直し作成している。日々の記録はケアプランを意識して記入するようにしているが十分ではなく、家族へのプランの説明も十分ではない部分がある。	日々の記録について、ケアプランに沿って記載できるよう様式の変更を検討中とのことであり、取り組みに期待したい。また、来訪の少ない家族への介護計画の説明について、よりきめ細かな対応を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過を個別に記入し情報の共有や見直しができるように個々にファイリングしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況、状態に合わせ臨機応変に対応出来るよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの病院や医師、また協力病院とも連携を図り皆様の健康促進に努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院への受診時には、職員が同行し主治医に情報を提供しております。また、地域に訪問診療も参入してきており、かかりつけの病院か訪問診療を選択出来るようになっております。	月2回の往診を受けている利用者が4名おり、それ以外の利用者も通院を事業所で支援している。受診内容は日々の記録の受診欄に記載しており、必要に応じて家族に報告している。	

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護師はおりませんので適切な受診、看護が受けられるよう病院やかかりつけの医師へ相談したり、職員間で話し合ったりしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃、定期受診等を通じて関係作りを図っております。入院時には、早期退院できるように話し合ったりもしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアや方針等について現在考案中。話し合いの場は設けているがまだ終末期に向けた事例はなく具体案がありません。	利用開始時に当事業所でのターミナルケアは難しいことを説明している。一方、最近になって訪問診療を始めたため、事業所に対応できる範囲を広げられるか検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な研修等へも参加しており、緊急時に備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方々との避難訓練も行っており、災害時に備えた協力体制も整っております。	年2回、昼間の時間帯を想定した避難訓練を実施し、職員の定期的な救急救命訓練も行われている。避難訓練には地域の方も参加している。救急救命訓練も定期的を受講しており、災害時に必要な備品の準備もできている。	年2回の避難訓練のうち、少なくとも1回は夜間想定での訓練とされるよう期待したい。また、訓練の手順書や記録類の整備も期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に個人の尊厳や人格、プライバシーに配慮した接遇を心がけております。	職員は利用者に「さん」づけで優しく呼び掛けている。まれに、耳の遠い利用者に大きな声で呼び掛ける職員がいるが、管理者が注意したり、職員同士で声を掛け合ったりしている。個人の記録は事務室で記載し、安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるよう個々に合った対応で意思表示を促しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ生活を送って頂けるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類を一緒に選んだり、身だしなみ等、ご本人に確認しながら行うように心がけています。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握し下ごしらえや盛りつけ、味見、後かたづけ等のご協力を頂けるよう努めております。	利用者の能力に応じて料理の下ごしらえや味付け、下膳や食器洗いを手伝ってもらっている。献立は本部が毎週作成し、畑で採れた季節の野菜も添えながら彩りの良いバランスのとれた食事を提供している。職員も同じ食事を一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用い必要な栄養、水分摂取が出来るようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る限りご本人の能力を活かし、口腔ケアを行うよう努めております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用い個々の排泄パターンを把握し、失敗を減らせるよう努めております。	日常生活チェック表を参考に、一人でトイレに行ける方も職員の支援が必要な方もできるだけ失敗なく排泄ができるように支援している。また、排泄に関する言葉掛けは周囲に聞こえないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の度合いや個々の能力に応じて運動を行ったり、食べ物の工夫、下剤の調整などを行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日によって入浴日が定められているが、通院やその日の体調により柔軟に対応しております。	午後1時～4時の時間帯で、週2回を基本に入浴してもらっているが3回以上入浴する利用者もいる。入浴拒否の場合は、担当者を変えたり「待っています」と呼び掛けて職員が浴室で待機するなど工夫している。同性介助や好みの湯加減に調整するなどきめ細かく対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合った生活、また状態に応じた柔軟な対応を心がけております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬について理解し用法、用量を適切に守り対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が同じものにならないように工夫しております。		

グループホーム みんなの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然豊かな住宅街の中にあり暖かい季節には、天候や気温に配慮しながら、近くを散歩したり敷地内の東屋で休憩したり、時には近所の方々とお話することもあります。その他、ドライブや紅葉狩りなどへ出かける事も行っております。	気候の良い時期には近くの公園などへ毎日でも散歩している。お花見や遠方ドライブ、隣町の公園などへの行事外出もあり、車で個別の買い物に行くこともあるが、冬場の外出は一般に少ない。	冬期でも、気分転換や五感刺激のために定期的に車で近場をドライブをするなどの取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご自分で管理出来る方に限り所持していただき、必要、希望に応じて使用していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来るよう支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りに心がけ温度や湿度へも配慮し、和みやすい環境となるよう努めております。	居間と食堂の間にあつた仕切りを外して一体化させているので、全体に日当たりが良く大きな窓から季節の移り変わりが一望できる。ソファーや食堂テーブルはゆったりとしたサイズで、写真や手造りの飾りをセンス良く配置している。浴室、トイレ、洗面所も清潔で使い易い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間で思い思いに過ごして頂いております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談しながら使い慣れたもの、馴染みの深いものなどを自由にお持ち頂き、居心地よく過ごせるよう努めております。	居室の入口に、表札代わりに家族の写真などがレイアウトされた写真フレームを掲げている。居室にも馴染みの物や写真が飾られ、利用者が安心して暮らせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り個人の能力を活かし、必要に応じ見守り、支援することで、安全、自立へ向けた生活が送れるよう努めております。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みんなの家

作成日：平成 24年 3月 28日

市町村受理日：平成 24年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	冬期間においても、隣接する当法人のグループホームへ交流を図るため訪問したり、そこでお寿司パーティ等を行っているが、外部へ気分転換となるような外出の機会が少ない。	外部へ向けた外出の機会をつくる。	ショッピングやドライブ等の計画をし、皆様が楽しく外出できるよう支援する。	1カ月
2	4	運営推進会議の実施回数が少なくご家族様も参加されていない。	運営推進会議の実施回数を増やし、ご家族様の参加を促す。	運営推進会議が概ね2カ月ごととなるよう予定表を作成し実施する。また、ご家族様への事前案内を早めに行い出来るだけご参加いただけるよう努める。	1年
3	26	来訪の少ないご家族への介護計画に関する説明が不十分である。	来訪の少ないご家族へも介護計画について十分な説明を行う。	ご家族へ介護計画を送付後にご連絡し、十分な説明を行った上で、ご質問・ご意見を伺いながら進めていくようにする。	6カ月
4	35	本年度は、日勤帯における避難訓練や消火訓練などは行われていたが、夜間を想定した避難訓練の回数が少なく、避難の手順などが具体化されていない。	年に1度は夜間を想定した避難訓練を行うと共に避難の手順、経路などを具体化し、整備を目指す。	年に1度は夜間を想定した避難訓練を計画し、消防署にご指導を受けながら実施する。また、避難の手順、経路などは具体化し明記したものを作成し掲示する。	1年
5	6	身体拘束に関するマニュアルはあるが、具体的な禁止行為までは明記されていない。	身体拘束に関する具体的な禁止行為をマニュアルへ明記する。	身体拘束に関する具体的な禁止行為をマニュアルに載せ、職員間で共通認識を持てるように話し合いを行って行く。	3カ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。